

北風に落ち葉が舞う季節となりました。図書委員会の新しい企画「Y 校本屋大賞」が始まりました。皆さんご参加ください。さて、今年の本屋大賞を受賞した、尻良ゆう『汝、星のごとく』(913.6 ナ)を横浜市立図書館で検索してみたところ、11月某日時点で予約が1697人待ちとなっていました。Y校では、さほど待たずに貸出可能ですので、ぜひご利用ください。

司書

## 📖 「子どもの発達と保育」絵本のPOP! 📖

家庭科「子どもの発達と保育」の授業で作成した絵本のPOPを図書館で掲示しています。小さいときに読んでもらって大好きだった絵本や、じん…とくる絵本、絵を見ているだけでも美味しそうな絵本やゲラゲラ笑っちゃう絵本などを紹介する可愛いPOPが大型本コーナーに並んでいます。この授業では、さらに自分たちでストーリーから絵本を作成し、近隣の保育園の園児たちを招いて手作り絵本の読み聞かせを行うという素敵な取り組みを行っているそうです。次回のYぶらりーでは、その手作り絵本の紹介ができるかも？お楽しみに！



## 📖 タイトルに「☆星☆」のある本 📖

日が暮れるのが早くなり、部活動が終わって帰宅する頃には空が真っ暗です。夜空を見上げるのにも良い季節。今回はタイトルに「星」がついた本を集めてみました。

### ○『宇宙の「一番星」を探して 宇宙最初の星はいつどのように誕生したのか』谷口義明 (443 タ)

星についての知識が深まる本です。星がどうやって生まれたのか、なぜ光って見えるのか、というような素朴な疑問から、専門的な内容にいたるまで、深遠な宇宙の神秘を垣間見ることができます。

### ○『小さな星の本』渡辺潤一監修 (440 ワ)

文庫本くらいの大きさの、かわいらしい本です。重厚感のあるカバーには星がちりばめられた装丁が施されており、中を開くと美しい写真やイラストで彩られた星に関するさまざまな情報でいっぱいです。季節ごとに見られる星座にまつわる神話や、世界中の星が綺麗に見える絶景スポット、宮沢賢治や中原中也、萩原朔太郎の星に関連した作品の紹介や、ゴッホの星月夜などの絵画の紹介など、幅広く取り扱う内容は見ていて飽きません。

### ○『汝、星のごとく』凧良ゆう (913.6 ナ)

作者二度目の本屋大賞受賞作となった作品です。タイトルに見える「星」は、作品の大事な部分に出てきて、ラストでは深い意味をもって現れます。感情の細かい描写が絶妙で、読書の醍醐味を味わえる本です。

### ○『星か獣になる季節』最果タヒ (913.6 サ)

図書館でみんなのおすすめ本コーナーを設置したときに、「高校生の今だからこそ読んでほしい作品です」とおススメされていた、高校生が主人公の短編です。この本の、“「17歳」という季節”へ向けて書かれたあとがきに、「青春を軽蔑の季節だと、季節だったと、気付けるのはいつだろうか。」と書かれた一文があり、ドキリとさせられました。「人間まるごと軽視して生きなきゃ耐えられなかったできそこないの季節。人でなしだって言ってしまうのは、さみしい大人のやりくちだ。」そうさそうさ、と思った方は、ぜひ。

### ○『この夏の星を見る』辻村深月 (913.6 ツ)

国内の離れた場所にいる中高生が、星を観ることを通して繋がってゆく、青春がいっぱいに詰まった物語です。今ではすっかり忘れかけていたコロナの最初の頃の不安だった気持ちや、どこにぶついたらよいかわからなかった怒りのやりどころ、社会の変化や、家族や友人との距離のはかり方など、あの頃に感じた思いが言語化されて現れてきて、確かにこんな風感じていたなあと思い返しました。また、大人の自分は気付けなかった子どもたちの葛藤を、この小説を通して知り、それは悪いことではなかったのかと気づかされました。

## 📖 今月のおすすめ本 📖



### ○『てづくり推しぬい BOOK きせかえできるぬいぐるみ』平栗 あずさ (594 ヒ)

みんなのリュックについているような可愛いぬいぐるみを自分で作れたら楽しそう。しかも推しにそっくりのぬいぐるみが作れたら！それができちゃう本があります。ぬいぐるみの体の大きさが11 cm、17 cm、20 cmの3種類から選べ、表情や髪形も組み合わせ次第でどんな推しでも作れそうです。洋服も着せ替え可能だから、何種類も作って楽しめます。

推しではなくて、もっとリアリティのある着せ替えを楽しみたい方には『ディズニーミニチュアドレス 飾っても、ドールに着せてもかわいい!』ブティック社 (594 ブ) をどうぞ。リカちゃん人形サイズの素敵なドレスの作り方が載っています。シンデレラやアリエルなどのお姫様だけでなく、マレフィセントやクルエラなど悪役キャラクターのドレスやマントも手作りできます。小さいサイズだから材料も少なくて済むので、失敗してやり直しても罪悪感なしです。短時間で完成するので、気軽に達成感も味わえます。

## □ 生徒より…本と向き合うということ □

3年生の生徒が『「みんな違ってみんないい」のか？ 相対主義と普遍主義の問題』山口裕之 著 という本を読んで深く考察し、書かれていることに対する自分の考えを伝えてくれました。この本は、昨今「正しさは人それぞれ」だから、考え方が違う人たちとも上手くやっっていこうという風潮があるけれど、何か一つに決めなければいけない場面もある、そのような「正しさ」のとらえかたについて著者は相対主義と普遍主義の問題から考えている、というような内容です。私は人の話を聞いても、本を読んでも、ついついその意見に同調してしまったり、すぐに感化されてしまったりすることが多いので、自分の意思をもって、なにかに真剣に向き合っているということに、尊さすら感じました。まぶしい文章を紹介します。

### ○『「みんな違ってみんないい」のか？ 相対主義と普遍主義の問題』山口裕之（104ヤ 新書コーナー）

『「正しさは人それぞれ」や「みんなちがってみんないい」といった主張は、多様性を尊重するどころか、異なる見解を、権力者の主観によって力任せに切り捨てることを正当化することにつながってしまう』と著者は主張する。意見の正しさに差がないとするなら、結局決定は力任せにするしかないからとのことだ。著者によれば、正しさは、関わる人が皆で作出すものである。また、著者は、「世界の見え方は人によって違う」という考え方を、「正しさは人によって違う」と同一視し、批判している。

私は「正しさは人それぞれ」が問題であることには同意する。しかし、世界の見え方に関しては人それぞれだと考える。私自身、世界に関する他の人の見方を学んだ途端に、この世界が美しくも醜くも見えることがある。同じ映画を観て、面白いと言う人とつまらないと言う人がいるのもよくあることである。仮に、世界の見え方が人それぞれだとして、正しさは人それぞれでなく、皆で協力して作るものだとしたらどうだろう。世界の見え方が人によって異なることを共通認識とした上で、正しさを皆で作ることをなぜ著者は提案していないのだろう。世界の認識の差異を認めなければ、皆で正しさを決める時、著者が危惧する、マイノリティの切り捨てに陥るのではないだろうか。本著には、人それぞれと言うほど、人間は異なっておらず、普遍的な道徳心などを持っていると書かれている。つまり、世界の見え方は人それぞれであっても、分かり合える部分があるということだ。ならばそれは、不確実性や多様性の時代における希望だ。「分かり合えない」、そして「分かり合える」という二面性を持つ私たち人間は、これから、より正しい正しさを求めての議論を経ることで、分断や対立を乗り越えられると私は信じている。

## ～図書委員会からのお知らせ～

**図書委員会では、「Y 校本屋大賞」を実施中です！**

**図書委員が選んだ 21 冊の中から、これは面白い、と思った本を**

**何冊でも選んで、右の QR から投票してください！**

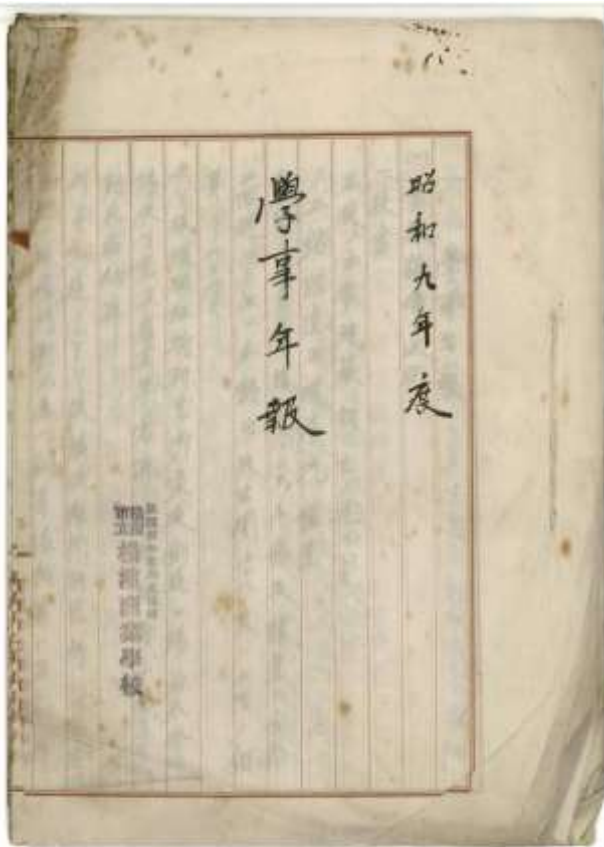
～ No Book No Life ～



# Y校アーカイブ vol. 21 「学事年報」

昭和9年度の学事年報です。一年間の学校のあらゆる情報が記載されています。

こよりで綴られた14枚の紙は赤い罫線が引かれている原稿用紙で、中央に「横濱市立横濱商業学校」と印刷されています。表紙とした紙には「昭和九年度 学事年報」と筆で記され、「横濱市中区南太田町横濱市立横濱商業学校」の印が捺されています。南区は今年で区制80周年、昭和19年に誕生したので、昭和9年当時はまだ「中区」でした。本文はガリ版刷りと思われる印刷で、学校の設備から先生方の待遇、学校の教育方針や志願者数及び倍率、修学旅行などの状況、就職状況や実業界との関係なども書かれています。



1.

2.

3.

4.

5.

1. 表紙
2. Y校横濱経済研究所が学内に設置されていたようです。
3. 便所(トイレ)は浄化装置付き
4. 掃除についても書かれています。
5. 夏休みなどには、百貨店や郵便局でインターン活動を行っていたようです。